

法蔵寺の歴史(十一)

飯沼の弘経寺



お坊さんになるために

関東十八檀林

どのようにしてお坊さんになるか。なかなか考える機会はないかと思えます。

現在お坊さんになるには、専門の大学で必要課程を修了し、本山で最後の修行を経て資格を得ます。または修行道場に三年間通い、大学修了課程と同等の学問を修め本山の修行に臨みます。大学などない、かつての時代は、修行の道のみでした。

江戸時代、浄土宗の僧侶になる為の修行が出来る本山または本山級のお寺は十八ヶ寺ありました。これを十八檀林(だんりん)といいます。全て関東にあったことから関東十八檀林とも

言います。

檀林での学問と修行を経て僧侶となったのです。

茨城県常総市にある

弘経寺(くぎょうじ)

十八ある檀林の一つに通称、飯沼の弘経寺(くぎょうじ)があります。僧侶になる資格を経る修行が出来る寺ということで、大変格の高いお寺です。

数多くの学僧を世に送り出しており、その中には徳川家康公、秀忠公、家光公に厚遇され、千姫の仏教の手ほどきした僧侶までいました。

法蔵寺は

弘経寺の中本寺

各檀林は地方に中本寺(ちゆ

うほんじ)をもうけていました。中本寺は様々な役割がありましたが、簡単に表現すると檀林の支所のようなものであったといえます。

『弘経寺史』にも記録が残っていますが、法蔵寺は檀林・飯沼弘経寺の中本寺でした。

法蔵寺はお寺の縁起から、法灯(ほうとう)・お寺の歴史をつなぐ)を絶やさないように心配されたようです。事実、時代が明治に変わり、法蔵寺の無住時代になるまで、弘経寺より僧侶が来ていたと言います。

現在、飯沼の弘経寺は浄土宗大本山増上寺の別院という格になつていきます。「千姫姿絵」をはじめたくさんの寺宝が残っており、参拝に行くのも興味深いかもれません。

合掌

寿亀山 天樹院 弘経寺

茨城県常総市豊岡町甲1番地

〇二八九一二四〇八九五

境内墓地への参道を
舗装しました。

法蔵寺の境内墓地へつながる本堂前および本堂脇の参道、歴代人霊廟まえ、手桶水場などがこのたび舗装されました。



↓ 舗装工事途中の様子

雨の度に川のように水が流れ、水たまりで歩くこともままならないときがあるなど、懸案事項のひとつでしたが、これからは気持ちよくお参りできることと思えます。少しずつですが、皆様のご理解、ご協力を得て、少しでもお参りしやすいお寺にしていきたいと思います。

合掌